

1. 評価結果概要表

平成21年 2月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400661		
法人名	医療法人藤美会		
事業所名	グループホーム すめらぎ		
所在地	長野県上水内郡中条村大字住良木9060 (電話) 026-267-3313		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】(20年 12月 14日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17 5年 16月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤12人	非常勤2人 常勤換算12.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	無し			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	無し	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1ヶ月当た!		45,000 円	

(4) 利用者の概要 (12月 14日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	4名	要介護2	5名			
要介護3	5名	要介護4	4名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	87.5 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	厚生連新町病院、 斉藤歯科小児科医院、
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野大町線(通称「オリンピック道路」)の道の駅「中条」の北側、土尻川近くの平地に、二つの円形建物と中央の管理棟部分で構成されてグループホームすめらぎはある。北側にそびえる信州100名山の虫倉山、日本の棚田100選に選ばれた数多くの棚田、虫倉山の山姥伝説など豊かな自然の中に形こそ変わっているが、周辺の住宅と同様に木造で、庭に囲まれて違和感なく存在している。その西隣には同法人経営の介護老人保健施設があり、有機的な協力関係を持ちつつ、グループホーム独自の、地域の中で、その人らしい暮らしを支え、安心の場作りを目指して、「ほめ上手」「聞き上手」「寄り添い上手」の信頼関係作り3要素をいつも胸に介護に携わっている。居室の窓からは田畑、家並、少し離れて車も行き交う道路と、見慣れた、生活の匂いのする風景が展開し、馴染み、気持ちを聞いてくれる職員に囲まれて、穏やかに、安心して暮らせる空気が漂っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>研修の計画的運営は事業所独自の計画を作成した。終末期の対応は指針作りや学習会参加と鋭意検討模索中。個人記録は鍵のかかる収納庫に保管できている。地域とのつながりは、「えんがわサロン」の開催と実現できたものもあるが、子供たちとの交流を今後実現すべく努力中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、評価の意義も十分に理解している。外部評価も運営推進会議に報告したり、事業計画への導入の努力など、具体的改善のために積極的に取り組んでいる。今後の改善としては、地域とのつながりや防災対策など、運営推進会議の協力を得ながら、地域と共に歩む取り組みを目指している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>年6回、構成メンバー共に充実しており、会議での意見等はサービス向上に活かしている。地域密着型の実現のため、公民館長、学校長、農協職員等への協力要請もしており、さらなる充実を目指している。平成20年6月より取り組んでいる「えんがわサロン」は介護保険、老いや認知症への不安などに応えようとするものであり、今後、包括支援センターとの関わりが多く出てくると思われるので、運営推進会議の構成メンバーに加えることを望みます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ご家族とのコミュニケーションが良好であるので、思いや意向を聞きやすい関係になっている。面会時や運営推進会議出席の折などを活用して聞くようにしている。意見箱の有効活用を含めて、テーマ(言葉づかい・整理整頓・清掃・不安や悩み事等)や聞き出す期間を決めて記入してもらうことも一考かと思う。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>村のふれあい祭りに参加、えんがわサロンの開催、地域主催のかいごサロンへの参加、周辺地域の散歩、野菜等の地域住民からの購入等、日々の生活の中で地域に溶け込み、地域に根ざした事業所になるよう取り組んでいる。運営推進会議を通じてグループホームの理解を深め、地域にとって頼りになる事業所となる活動(介護相談、災害時の避難場所の提供等)をさらに推進することを望みます。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者主体」「人権尊重」「自立支援」の3つの理念を持ち、運営方針に「地域に開かれた運営」を掲げて、地域の中で、その人らしく安心して暮らせる場所作りを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎月のミーティングで周知をし、全職員に浸透している。信頼関係作りの3要素も併せて、寄り添う介護の、日々の実践に積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中条村のふれあい祭りなどの地域行事に参加したり、20年度から始めた「えんがわサロン」での地域住民へのグループホームを知ってもらうための取り組み、広報活動など、交通の便が悪いという条件にも関わらず、地域とのつきあいに積極的に、ひたむきに取り組んでいる。		年齢を経るに従い、次代を担う子供たちとの交流は未来への希望や生きることへの活力を生み出す源にもなるので、送迎手段等の困難さは伴うものの地域の知恵を借りて、保育園児・小・中学生との交流をさらに深めることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、評価すること、評価されることを十分に理解していた。外部評価されたことも運営推進会議に提案し、具体的改善に向けて取り組み、実現したもの、現在鋭意検討中のもの等、積極的で真摯な姿勢が伺えた。		

グループホームすめらぎ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回開催され、構成メンバーも充実している。事業所の状況や評価内容も報告され、会議で話し合われた意見はサービス向上に活かされている。さらに学校長、農協職員等のメンバーの拡大を図り、地域に密着した事業所作りを目指している。</p>		<p>えんがわサロンは、これから介護保険を利用する人、介護予防の必要のある人等との接触もあり、包括支援センターにつながるケースも見受けられるので運営推進会議のメンバーに加えることを望みます。さらに運営推進会議を事業所の課題解決の協力組織としても位置づけ、頼り、頼られる関係となってゆくことを期待します。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に村役場職員が2名加わるなど、役場との関係は良好であり、不明なこと等は相談に行き、サービスの向上に取り組んでいる。災害時の協力、無断外出時の搜索協力、運営上の相談等、常に良好な関係が必要であるので、さらにより良い関係作りに努めることを望みます。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年6回発行のうめだよりの送付、面会の折、体調の変化のあった時等に利用者の様子を報告している。金銭管理簿は利用料の請求に併せて報告し、職員の異動は文書にて知らせ、玄関の入り口には全職員の写真入の掲示があり、異動はよくわかるようになっていた。定期的に様子を知らせることは、ご家族に安心を与えることになるので、変化のない場合も報告することを望みます。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議出席を活用してご家族の意向を聞いている。又、職員とご家族とのコミュニケーションがよく保たれているので、意見を聞きやすい関係になっている。とは言え、なかなか意見を言えないのがご家族の本心であるので、テーマを決めて聞いたことを書いてもらうのも意見箱の有効活用になると感じた。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は少なく、馴染みの関係を大切にしている。異動へのダメージを少なくする配慮のため、大げさな退職の挨拶等は控えて、新人職員には担当職員が付いて、日々の業務を学び、利用者にはゆっくり、馴染みながら接触し、さりげなく交代して行くようにしている。</p>		

グループホームすめらぎ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修は一人年1回出席できるよう配慮し、併設施設の内部研修にも参加している。休日を利用しての研修参加、内容に応じた研修出席命令もあり研修面での充実度を感じた。研修報告書やミーティングでの報告など研修内容の共有化も図られていた。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>「善光寺平グループホームねっと」に所属して、会議に参加し(2か月に1回)、情報の交換を行っている。相互訪問、相互評価、事業所の課題の相談など積極的にネットワークを活用して、さらなるサービスの質の向上に取り組むことを期待します。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の利用者やご家族との接触を大切に、在宅のケアマネージャーや民生児童委員等からも情報をよく聞いて、利用者やご家族が納得して入居できるよう対応している。事業所にお茶を飲みに来てもらい、事業所の雰囲気や職員、利用者に慣れてもらい、馴染みながら利用できるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>おぶっこ作り、畑作業、草取りなど利用者の得意分野を聞いて積極的に取り組んでもらい、職員は教わりながら共に暮らし支えあう関係作りをしている。鞠を使っての甘酒作りは利用者から指導を受けて作ったと職員から伺った。日々の生活から遠ざかったことは忘れがちであるが、利用者は身体に染み付くように残っていることを改めて感じた。</p>		

グループホームすめらぎ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>相性が良い、言いやすいといった職員との繋がりがあり、願いや意向を素直に言える関係が出来上がっている。ご家族から聴取した情報やアセスメント用紙から個性や価値観等も把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析はICF方式を土台にした事業所独自の様式とし、利用者やご家族から十分に意向を聞いて、担当者を交えてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。必要に応じて併設施設のリハビリ担当等の意見を取り入れている。ご家族の計画書の了解は手紙で行っている。薬の辞典を活用し、服用する薬の働きや飲み方を理解した上で介護することを心掛けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的には3～4か月毎に見直しを行い、状況変化時には臨機応変に見直しを行っている。担当制になっているが2ユニットに跨って介護することもあるので、全職員が介護記録等を通じて意見やアイデアを言い、介護計画に反映できる環境がある。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護職員の職員配置による医療連携体制があり、重度化への対応、医療機関との密接な情報交換や連携による早期退院への努力、受診等への付き添いを行い、事業所の多機能性を活かしている。</p>		

グループホームすめらぎ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	ほとんどの利用者が村の診療所を利用しており、月に4回の往診がある。緊急入院は事業所の協力医療機関を活用している。医師、ご家族、事業所との連絡は良好であり、理解を得られた中での支援が出来ている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化した場合の方針があり、ご家族と話し合い、意思確認書を作成し、利用者が安心して過ごせるよう取り組んでいる。終末期については、ターミナルケアの勉強会や病状の急変時の対応の勉強会などを行っており、今後起こり得る介護や対処方法の共有化を図っている。早期にターミナルケアの指針を作成することを望みます。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	毎月ミーティング時に周知徹底し、守秘義務の誓約書を取り、個人記録は鍵の掛かる保管庫に収納している。さりげない言葉の中に利用者の尊厳を傷つける場合もあるので、時折、第三者(運営推進会議のメンバーなど)のチェックを入れる機会を作ることでも一考かと思う。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一日の基本的な流れはあるが、その日、その時の思いを聞きながら、ゴミ出し、買い物、畑作業、ドライブなどに出掛けている。併設施設への催し物見学や編み物作りに参加したりと一人ひとりのペースを大切にして、その人らしく暮らせるよう支援している。		

グループホームすめらぎ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>併設施設の栄養士の献立を土台にして、利用者とは相談し、若干の調整をして食事作りをしている。調理、盛り付け、片付け、洗い物と出来る範囲で利用者と共にやっている。畑で取れた野菜、近隣から購入した食材も臨機応変に活用して、時には店屋物も取り入れ、楽しめる食事となるよう支援している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は週3回、曜日を決めて概ね午前中に行っている。薬草湯、ゆず、りんご、みかん湯など、健康面の配慮やのんびり楽しめる入浴の工夫をしている。重度化した場合は併設施設の機械浴の活用も視野に入れている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>おぶっこ作り、花の水遣り、洗濯物干しなど個別の役割、相談しながらの遠出の外出もあり気晴らしや楽しみごとにつながっている。昔取った杵柄で梅干や干し柿作りもして、干し柿はまだ乾き切らないうちに食べてしまうと伺い、一番おいしい時期をよく知っていると感じた。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的な近隣への散歩、事業所周辺での外気浴、花見、紅葉狩り、長野権堂の七夕など季節の移り変わりやさわやかな風や匂いを感じるための支援を行っている。事業所から見える道の駅中条へも出掛け、買い物や人々と出会い、気分転換やストレス発散の機会としている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は玄関には鍵はかけてなく、鍵を掛けないケアについての理解も出来ている。帰宅願望の強い利用者の居室の掃き出し窓には危険防止のため施錠されているが、出入り口は開放されている。在宅確認等の安全への配慮は充分に出来ている。</p>		

グループホームすめらぎ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	併設施設との合同防災訓練を実施し、避難経路図を作成しユニット毎に見やすい場所に貼っており、災害への対策は出来ている。地域の協力を得るため、運営推進会議を通じて、地区住民、地区消防団、消防署等への働きかけを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	併設施設の栄養士が作成した献立を土台にして調理しているので栄養バランスはよく整っている。食事摂取量や水分量のチェックも行なっている。これらを土台にして利用者が食べたい物をおいしく食べ、満足してもらえるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	建物は円形になって、居室の出入り口は円の中央のフロアー(居間)に向かっており、一望できて、自然と集まり談話できるようになっている。オープンキッチン、食堂があり調理の音や匂いが感じられ、居間には大型のテレビやくつろげるソファがあり、天窓からの採光も良く、ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫されていた。浴室は広く、明るく、トイレも清潔で十分な広さがあった。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は利用者の馴染みの収納ダンス、テレビ、写真、飾り物等があり、窓からの景色も馴染んだ田畑、家並等が見られ、安心して過ごせるようになっていた。居室の出入り口は開所当時よりカーテンになっていたが、ご家族等の要望もあり、現在順次木製のドアに取り替えるよう実施している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。